

## 「進んで学び、生き生きと活動する児童の育成」

個に応じた『聴く力・話す力』の向上を目指して

### I 主題設定の理由

昨年度の研究成果と課題、また児童の実態から今年度も昨年度の研究を継続し、本校児童の課題である『聴く力・話す力』を身につけさせ、それによって「進んで学び、生き生きと活動する児童」の育成を図ろうと考えた。

今年度の研究は学校教育目標の中の『よく考え進んで学習する子ども』に焦点を当て、重点課題の次の点を中心に、研究を進めていく。

#### 【学力向上】

○聴く・話す力を向上させ、学ぶ意欲を高める。

○個に応じた指導を工夫し、学力を高める。

#### 【豊かな心の育成】

○さわやかなあいさつや、言葉づかいができるように努める。

### II 研究の具体的内容と方法

#### 研究仮説

国語科を中心に、教科・特別活動および総合的な学習の時間において、個に応じた聴く力・話す力をつけさせるための手だてを取り入れることによって、進んで学び、生き生きと活動する児童を育成することができるだろう。

1. 国語科を中心にした研究仮説に沿った検証授業の実施  
(年間の検証授業を2本、その他全クラスの授業、日常活動を公開もしくは実践報告)
2. 学び方を身につけさせるための手だてを実践する。
  - ・聴き方、話し方(あいさつ・返事)における基本を明確にする。
  - ・学び方の1年間の達成目標を設定し各クラスで取り組み、振り返り、次への改善(7月・12月)に生かす。
3. 2学期制に伴う通信表の見直し
4. 各学年に応じた情報処理能力の習得と、学習活動の中での教育ソフトの利用やコンピュータなどの活用を行う。
5. 子どもたちの変容を目指し、研究計画以外にもできるだけ実践交流を行い学習し合う。子どもたちへの指導については、全職員が共通理解のもと当たる。
6. 指導助言者を招き、研究が深まるようにする。
7. 文献や研修会、自己研修で学んだことを伝達し、学び合う職員集団を目指す。

### Ⅲ 研究実践

#### 1. 全校での取り組み

- (1) 聴き方、話し方（あいさつ・返事）における基本指導の確認、集会時・入室時
- (2) 教室掲示『聴く・話すためのチェックポイント』
- (3) 学び方シート（聴き方・話し方の年間目標、手だて、振り返り）
- (4) 言語環境の整備、親子読書（家庭にも啓発）

#### 2. 授業研究

##### (1) 検証授業

- ア、3年 特別活動（学級活動）「元気の出る聴き方」→聴き方スキルの体験
- イ、5年 国語科 『失敗』をめぐって→少人数での話し合い

##### (2) 一人一実践授業

- ア、1年 国語科「くじらぐも」→想像を広げ、意見を発表
- イ、2年 国語科「あったらいいな、こんなもの」→発表を聴き質問アドバイス
- ウ、4年 国語科「話し合って決めよう」→合意点を探りながら話し合う
- エ、6年 国語科「今、わたしは、ぼくは」→グループでの発表会

#### 3. ブロックでの取り組み

##### (1) 低学年ブロック…たてわり読み聴かせ

- ・たてわり班を使い、順番に本の読み聴かせを行う。異学年でのふれあいと共に、聴いてもらった喜びや、読んでもらったうれしさを共に味わうことで「聴く・読む」ことの大切さを実感させる。

##### (2) 高学年ブロック…ふれあいスピーチ

- ・朝の活動時に「ふれあいスピーチ広場」を設け、異学年で順番にスピーチをする。普通の授業ではできない学年の枠を越えて学習交流を行い、学びを深めると共に、スピーチやそれを聴いて質問や感想などを出すことで「聴く・話す」経験をさらに積む。

### Ⅳ 成果と課題

#### ◎成果

- ・集会時の聴く態度、発表の仕方や入室時のあいさつなど全職員が共通理解の下、子どもたちの指導にあたったので徹底し、効果があった。
- ・一人一実践授業は互いに授業を見合い、研究を深めるためにも有効だった。また他学年の児童を知るよい機会にもなった。
- ・各教室に『聴く・話すためのチェックポイント』を掲示することにより、常に子どもたちの意識にも止まり、振り返りにも使い便利だった。

#### ▲課題

- ・指導と評価の一体化で、児童に自分が達成目標のどのあたりにいるのか理解させ、上を目指す手だてを知らせる必要もある。

（研究主任 八巻 恵子）